

# 勝林寺夕報

光雲無碍如虛空  
一切の有碍にさわりなし  
光沢かむらぬものぞなき  
難想議を帰命せよ

(この和讃は前号からのつづきです)

「たのむ」ということばがあります。  
神や仏になんでもかども無理なことをねだることを「神だのみ」といいます。請い求めて祈ることです。  
もう一つ「たのむ」ということがあります。  
「親をたのみにして」などという場合の「たのむ」は「あてにして」「たのみにして」という意味でつかわれております。

なんでもかどもおねだりする人の姿は、見るからに悲惨です。ときにはおそろしいほどの形相になります。またならなければほんとに「たのんでいる」とことはならぬのでしょうか。

一方、第二番目の「たのむ」は、あて・たのみにして寄りかかつた不安も疑も心配もないところです。から、その「たのんだ」姿はいかにも安いだ香りにみちたすがたとなります。

淨土真宗で「弥陀をたのむ」というのは、この「たのむ」のところを言つてゐるのであつて決して前の無理じいり「どうかおたすけを」と祈願することを言つてゐるのはありません。

この私に、「いつでも、どこでも、だれでも」とよく聞こださる如来さまのおよび声が聞こえたら、および声のなかで如来さまに出会えたら、おまかせてにし、たよりにして、あとはその如来さまのおはたらきのなかで安らかに輝かしく恵みのなかのよろこびのくらしをさせていただくのです。それが淨土真宗の「信心」です。

いまこのご和讃では「光沢かむらぬものぞなき」とあります。「ヒカリニアタルユエニ、智慧ノイデクルナリ」と親姫さまは註をつけてくださっています。

如來さまの智慧の光を仰ぎ如來さまを「たのべば」、その人のくらしのうえにも智慧が出てくるのだとおつしやいます。智慧が出てくるといふことは、いままで見えなかつたものが見えてくるということです。如來さまの光のなかで私も新らしい世界がひらけてくるよとおつしやるのです。

「現生十種の益」といわれています。

「金剛の真心を獲得すれば……現生に十種の益を得るなり（ダイヤはどのかたい如來の真心に出会わさせていたいたなれば、この世において次の十のおめぐみをうけることができる）

「眞衆護持の益（目には見えない神々に護られて）、至徳具足の益（このうえない徳を具えたお念仏にいまよばれている）、三転惡成善の益（いままで惡因縁だと思つていたものもお念仏のなかで有難い縁とよろこべる）

四諸仏護念の益（十方三世の諸仏に護られる身と知らされる）

五諸仏稱讚の益（お念仏のなかから、よく如來に気づいてくれたとお詫めくださる諸仏の声も聞こえてくる）

六心光常懶の益（いつどこにどうしても如來のご本願の光のなかのくらし）

七常行大悲の益（お念仏のなかで、人の悲しみもわからせていただくようになる）

八知恩報德の益（如來さまはじめ多くのご恩に気付き少しどもご恩報謝したいと思う）

九常行大悲の益（お念仏のなかで、人の悲しみもわからせていただくようになる）

十入正定聚の益（如來さまのお淨土に間違なく生れさせていただく身となる）

三年にしてあらためず

「樹静かならんと欲されど風やまず、現に孝たらんと欲されど現またず」「孝行のしたい時にあゝもしてあげればよかつた、こうも孝行すればよかつたと先にたたぬ後悔をかこつのが私たち子どものつねです。」

「親をなくした今になつて、それでも私にできる孝行はどんなことでしようか」孔子さまにお弟子の一人がそう聞いたとき、孔子さまにはこのたえは簡単明瞭でした。たつたひとこと、「三年にして父の道を改めず」。それが孝行というものだよ。

「三年にして改めず」、三年たつても親がやつていたやりかたをかえないので親孝行というものだよという意味です。三年というのは、一年二年三年と数える三年ではありません。おそらくいつももといることなのでしょう。いつまでも親のやり方をかえないので孝行なのだ。

しかしそれはどういうことなのでしょうか。

親とわかれからはいつまでも「おやじが今いたら、これをどうするだろうなあ。」「おぶくろが今いてくれたら、どう言つてくれるだろうなあ」と、いつも私を願つてくれている親に聞い、尋ね、聞いていくなかでとそ、まつとうと私のくらしも立つのだよと示してくださいつていふではないでしょうか。

生死の荒海のなかに一人放り出された私のいのち。そういうのちであるだけに、如來さまの大悲の願いは切ないものがあります。

その私のいのちをいつでもどこでもと願つておつてくださる如來さまに、お念仏のなかで問い合わせ聞いていくくらしが念仏者のからしではないでしょうか。

如來さまは今どういつてくださるだろう。如來さまはいまどう働いていてくださるだろう。

八月九日「みのりを聞く会」は申しわけありませんが

八月のこよみ

一日 鹽野原德寺定例法話  
二日 木山基幹運動部第二專門部会  
三四日 出石町公民大会・成田武夫氏生誕事  
四日 平野謙三郎氏生法事・森藤照彦氏忌明  
五日 正法寺追悼会・致林正之庄宅開講・森藤照彦氏忌明  
七日 仲田義太氏生法事・吉田幸定例・十六皮至定例  
十日 永井かめの氏生初益・中川敬太郎様初益・関岡敏雄氏空  
十一日 初益  
十二日 宮崎義雄氏初益・谷原なつ子氏生初益  
十三日 玉井健蔵氏生初益・出石町益參り  
十四日 藤口豊司氏生初益・横山守氏生初益・横山久義氏生初益  
十五日 清水巖一氏生初益  
十六日 斎藤照彦氏生初益  
十八日 敦舜一郎氏生法事  
十八日・十九日 勝林寺子供研修会  
二十一日 高橋義雄氏生初益  
二十二日 同朋運動研修会（高野山）  
二十四日 二十三日  
二十五日 二十六日 中央教導師（大谷木蘭）  
二十七日 二十八日 同朋運動本部専門部会  
二十九日 三十日・九月一日 教區總合企劃委員會（神戸）  
三十日・九月一日 浜田組一郎太廟研修部  
二十九日 教區總合企劃委員會（神戸）  
三十日・九月一日 浜田組一郎太廟研修部

如來さまの智慧の光にあつたら、その光のなかで今まで見えなかつたすばらしい世界が見えてくるのです。そんなすばらしい世界に生きている間からくらせます。そんな宗教のご利益にても大利益です。

七月三日

葬儀

小田 藤 藤 ち と 様



（勝林寺テレホン法話）

## 私のお念仏

宮嶋千秋

梅雨があけて、本格的な夏の季節になりました。八月になりますと「お盆」がきます。

「お盆」は昔からどこでも先祖のおまつりをすることになつてゐるのですが、普段忙しさのなかで忘れていましたが、せめて「お盆」にはだれもみんなそろつてお参りをいたします。

ほんとは年中いつでも心がけなければならないことなのです。

先祖に感謝申すことはまた、子や孫を大切にすることにつながると思います。

先祖一親一私と流れてきたものを、欠けがえのない尊いものを子孫に引継ぐために、いま私は人間に生れさせていたゞいているものと思い、この生きがいを思はせていたゞくなかで、後継ぎなしではそのあわせも味わうことができなかつたのにとしみじみ今の私のあわせを感じさせていただいております。

先だつての仏事仏婦の研修旅行のとき、お寺の団体が神社に参つてはならぬという意見がありました。私が私はそうではないと思います。たゞ、お寺と神社とはものがらが根本的にちがいます。

すべての世界を、智慧と慈悲（光とよびごえ）であめつくそつとはたらいてくださる阿弥陀さまがあらわれていてくださるのがそれがお寺です。それには出逢いにお参りさせていたくところがお寺だと思つております。

それに對して、有名な人物、伝説上の人物、ときには人間の欲が勝手につくりあげたものがお祭りしてあるのが神社だと思います。

つまりは人のしたことです。その裏にはいろいろと



悪業がひそんでいることのあることは、「みのりを聞く会」のご聴聞でまだ記憶に新らしいところでございます。

おまつりしてある人のかけに、その人のためには苦しめられた人々、侵略略奪され殺されて功名のかけに消されていった人々も多くいたはずです。またそうでなくともその人の業績のかけで力となつて働いた人たちのあつたことも見のがすこともできないと思います。

ですから、いくらよいことをしたといつても悪いことをしたといつても、しょせん欲のなかではたらいいるかぎり（いや人のいのちのいとなみであるかぎり）悪業の世界からのがれることのできないのが人間だと思います。

そのあたりのことによくよくかみわけてみなればならないと思います。

このけじめをかみわけたうえで、神社でもどこへ行つても、お参りする方の考え方次第だと思います。いつもお念仏を申し、合掌のすがたをもとにして考えたいものです。

自動車の発達により急に忙しい人生になつたよう思います。いつもお念仏を申し、合掌のすがたをもとにして考えたいものです。

自動車でスピードを出せば出すほど視野が狭くなり事故がよく起きるようになるといわれております。

人生も、スピードが出れば、見えるものも見えなくなつてしまします。

だんだんと危険な方へひた走りに走つている私はです。

お念仏はけつしてたのみことではありません。このように危険な私の心のなか生活のなかにいります。南無阿弥陀仏のおよび声がひびきわたつてくださいます。悪業の箱のなかにいる私の心の中に、底力となつて働いてくださつておるお念仏であるといただいております。

対象 小学生（母同伴なれば幼稚園）

日時 八月十八日 後二時受付  
十九日 正午解散

会費 一人（一升と二百円）  
二人（一升と五百円）  
三人（一升と八百円）

付添いは一升

評議員の方はなるべく出席ください

悪業が重なる日々のわたくしに

清淨無碍の阿弥陀のよび声



## おれの方が偉いと思っている

人はあいさつをしない

私の方が正しいと思っている人

笑顔をもたない。

## 本堂格天井みごとに完成

本堂内陣外陣の格天井の工事は最後の金具打ちをもつて完成しました。永代経へお参りのご門徒はもちろん、つい立ち寄る觀光客までが、「おやこはまあ西日光」と、これはちょっとほめすぎ、お盆には是非家族おそろいでお参りください。

## 大柱時計 本堂にかかる

本堂格天井の完成を祝つて、遠い川崎市から本堂用の大柱時計が送られてきました。

小田出身の斎藤忍様。一メートル二十もある立派な振子時計です。さつそく本堂にかけさせていただきました。



「念仏の声を子や孫に」・「ほ

とけの子どもを育てよう」のあいことばのなかで私たち仏婦は今年で十九回「子ども研修会」をつづけてきました。

今年も頼いあらたにとりくみたいと思います。

参加推進にお手つたにご協力ください。

シソのジュースはいかが

材料 水 十カップ（約一升）・クエン酸 三〇g・シソの葉

作り方 まず、十カップの水を沸騰させクエン酸をとかす。次に、赤シソの葉が青くなるまで煮つめる。色がわればシソの葉を引き上げ、砂糖を入れ、よくませて、こす。よく消毒したビンに入れて保存する。

四～五倍にうすめ、夏はコール、冬はホットで。お好みによりウイスキー・レモンをたらしてもよい。

あぜ豆のゆがきかたのコツ

豆を枝からはじいて、豆の両端をハサミで切る。豆をザルにとり毛がとれるまできれいに洗う。洗つた豆に塩をまぶし、三十分ほどおいてから、熱湯でゆがく。

一度おためしください。色よく、味よく仕上ります。

